

2010年7月27日

猛暑時期に起こる火災（自然発火・蓄熱発火）について

日本火災学会学術委員会委員長

鶴田 俊

現在、世界的に高温が観測されています¹⁾。

このような高温状態が長期間継続した場合、**数年間蓄積したセルロイド²⁾**、おがくず、繊維くず等の可燃物堆積物の発熱と蓄熱が進行し、火災に至ることがあります。

セルロイドの使用される分野は少なくなっていますが、自然環境中で分解しやすい樹脂類の利用が広がっています。**自然分解しやすい樹脂、酸化されやすい動植物油を含んだ繊維・紙類等も発熱と蓄熱を起こしやすくなります。**

夏季休暇で長期間施錠された部屋に置かれた化学薬品等が高温に暴露され火災となった例があります。

断熱性の高い可燃物を大量に密閉状態で保管されている場合^{3, 4, 5)}には、注意が必要です。

“ 異臭や発煙を発見した場合には、避難、通報を迅速に実施してください。 ”

1) 「2010年6月の世界の平均気温は、統計を開始した1891年以降で6月としては、1998年と並んで最も高い値となりました。」

(<http://www.jma.go.jp/jma/press/1007/15a/temp1006.html>)

2) 「昭和59年に発生した火災による建物及び所蔵フィルムの一部焼失という不幸な事態」

(http://www.bunka.go.jp/geijutsu_bunka/eiga_eizou/other/pdf/filmcenter_dokuritu.pdf)

3) 「昭和30年代、気温の上昇する6月頃からセルロイドの自然発火による火災が多発していました。このため、昭和38年に東京がはじめて6月20日を「危険物安全の日」として定め、危険物の保安に関する広報等が実施されることとなりました。東京で危険物安全の日が制定された翌年の昭和39年7月14日品川区勝島において、倉庫内の危険物に次々と燃え広がって爆発するという大火災が発生しました。」

(<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-akasaka/kiken.html>)

4) 「硝化綿の自然発火の推定」

(<http://shippai.jst.go.jp/fkd/Detail?fn=2&id=CC0200031>)

5) 「再生資源燃料における廃棄物固形化燃料等の安全対策について」

(<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2008/pdf/200829ki333.pdf>)